

## 平成 25 年度研究船利用公募 募集対象機器について

独立行政法人海洋研究開発機構  
海洋工学センター運航管理部

平成 25 年度 募集対象探査機および機器の注意事項についてお知らせします。募集対象機器・ペイロード機器等の詳細情報は、「各船舶・機器等 利用の手引き」(参考ページ)をご参照ください。また、記載のないものについてはご相談下さい。

1. 無人探査機「ハイパードルフィン 3000」(最大潜航深度 3,000m)
  - ・搭載可能船舶は「なつしま」です。
  - ・連続潜航は最大 8 日間です。8 日以上続けて潜航する場合は 1 日の非潜航日(整備日)が必要です。
  - ・「ハイパードルフィン」と「ディープ・トウ」は「なつしま」に同時搭載は出来ません。
2. 有人潜水調査船「しんかい 6500」(潜航最大深度 6,500m)
  - ・搭載可能船舶は「よこすか」です。
  - ・連続潜航は最大 5 日間です。5 日以上続けて潜航する場合は 1 日の非潜航日(整備日)が必要です。
  - ・「うらしま」との同時搭載はできません。
3. 深海巡航探査機「うらしま」(最大潜航深度 3,500m)
  - ・搭載可能船舶は「よこすか」です。
  - ・連続潜航は最大 5 日間です。5 日以上続けて潜航する場合は 1 日の非潜航日(整備日)が必要です。
  - ・「しんかい 6500」との同時搭載はできません。
4. 無人探査機「かいこう 7000 II」(最大潜航深度 7,000m)
  - ・搭載可能船舶は「かきれい」です。
  - ・連続潜航は最大 8 日間です。8 日以上続けて潜航する場合は 1 日の非潜航日(整備日)が必要です。
  - ・「かいこう 7000 II」の潜航深度が制限される可能性があります。本探査機と母船とを繋ぐ 1 次ケーブルは、製造から 12 年が経過し、強度が徐々に低下しております。現在、最大張力が許容荷重を上回らないよう、繰出し・巻上げ速度を緩やかにすることで、最大潜航深度 7000m を保持しておりますが、毎年実施している強度試験の結果次第では、更なる運用方法の制限および最大潜航深度の見直しが必要となります。強度試験は毎年 4 月を予定しており、検証結果のご案内については、8 月以降となります。

5. 深海曳航調査システム「ディープ・トウ」(深海カメラ、サイドスキャンソナー)  
(最大潜航深度 4,000m)
  - ・搭載可能船舶は「なつしま」、「よこすか」、「かいいい」です。
  - ・連続潜航は最大8日間です。8日以上続けて潜航する場合は1日の非潜航日(整備日)が必要です。
  - ・「よこすか」には、「よこすかディープ・トウ」(4500m級)を常時搭載しています。「しんかい 6500」の調査行動中、「ディープ・トウ」への艀装替えは平穏な海域で行う必要があります。
  
6. シングルチャンネル音波探査装置(SCS)
  - ・搭載可能船舶は「なつしま」、「よこすか」、「かいいい」、「みらい」です。
  
7. 採泥関連機器

採泥関連は下記の機器があり、搭載可能船舶は「なつしま」、「よこすか」、「かいいい」、「みらい」です。他の機器との同時搭載が実施できない場合があります。また、使用方法や水深によっては制限が発生する場合がありますのでご相談ください。

  - (1) ピストンコアラー  
採泥管長は最大で「なつしま」10m、「よこすか」15m、「かいいい」20m、「みらい」20mです。他の搭載機器や調査内容により変化します。
  - (2) マルチプルコアラー
  - (3) マルチタイプ小型表層採泥器
  - (4) ユーイング型コアラー
  - (5) 円筒型ドレッジ
  - (6) グラブ採泥器
  
8. アイソバン実験室(RI ラボコンテナ)の利用について
  - ・搭載可能船舶は「なつしま」、「よこすか」、「かいいい」、「みらい」です。
  - ・使用核種や数量に制限があるので、詳しくは「研究船上における非密封放射性同位体元素の利用の手引き」(参考ページ)を参照してください。
  - ・利用に際し、第一種放射線取扱主任免状を有し、機構が別途実施する教育訓練を受講した者が乗船する必要があります。
  
9. 観測機器の同時搭載等について

「ハイパードルフィン」、「しんかい 6500」、「うらしま」、「かいこう 7000Ⅱ」、「ディープ・トウ」などの有人潜水調査船、無人探査機等と、SCSや採泥関連機器の同時搭載は不可能な場合があります。同時搭載・同時利用を希望する場合は、事前にご相談ください。また、持ち込み機器について、これまで実績のある使用法以外で使用する場合は、ご相談ください。